ほっと安心日南町こころの健康づくりネットワーク会議

における取り組み

～いのちを守るため、地域全体で見守り支え合う体制づくり～

【実施主体】鳥取県日南町

【概　要】
2005 年度に 20 歳以上の全住民を対象に実施した「こころの健康づくり調査」の結果から、自死と関連の深いうつ病など、こころの不調に早く気づき、命を守るため、地域全体で見守り支えあう「ほっと安心日南町こころの健康づくりネットワーク会議」を 2006 年 12 月立ち上げた。15 年にわたり毎年会議及び研修会等を開催し、ネットワークの構築と地域における自死対策の取り組みを実施している。

【大綱の分類】
1. 地域レベルの実践的な取組への支援を強化する
10. 民間団体との連携を強化する

【政策パッケージ分類】
☑基１）　地域におけるネットワークの強化
□基２）　自殺対策を支える人材の育成
☑基３）　住民への啓発と周知
□基４－１）居場所づくり
□基４－２）自殺未遂者等への支援
□基４－３）遺された人への支援
□基５）　児童生徒の SOS の出し方に関する教育
□重１）　子ども・若者
□重２）　勤務・経営
□重３）　生活困窮者
□重４）　無職者・失業者
□重５）　高齢者
□重６）　ハイリスク地
□重７）　震災等被災地
□重８）　自殺手段
□その他（いずれにも該当しない、妊産婦、マイノリティ等）

【事業実施年度】2021 年

【事業予算】￥5,530

【利　点】
▼相談窓口となる関係機関とのネットワークを通じて、こころの不調の早期発見、早期対応へとつながる。
▼ネットワークの構築が、地域の自死対策の底上げにつながっている。

【実施に至るまで】

背景・必要性・理由の概要

①日南町の年齢調整死亡率は、2003 年 52.6、標準化死亡比は 335.9 と鳥取県及び全国平均より高く、例年高値を推移していた。また自死者においては、男性が半数以上を占め、年代は 60 歳代が一番多いが、高齢者及び若者の死亡もあり、全年代に渡っての対策が必要であった。

②2005 年度、国のモデル事業として「こころのセーフティネット事業」を実施。事業と合わせて、20 歳以上の全住民を対象に「こころの健康づくり調査」を実施。調査結果より、調査で発見されたうつが疑われる人のみの追跡では限界があり、誰もがその変化に早く気づいて対応ができ、関係者同士で連携できるネットワークづくりの必要性が見えてきた。

③2006 年度、保健所長、保健所保健師、町保健師で関係機関に説明と依頼に訪問し、12 月に「ほっと安心日南町こころの健康づくりネットワーク会議」が発足した。

④会議は年１回開催し、周りの人がこころの不調に早く気づき、相談しやすい環境整備に取り組んでいる。

事業計画を立てる上での工夫

①会議要綱を設置し、会議運営を明確化した。

②自死対策事業を町の健康づくり計画の重点課題の一つとして位置付けた。

③鳥取県精神保健福祉センター及び米子保健所（発足当時は日野保健所）の協力を得ながら、「こころの健康づくりに関する連絡会」を年間３～５回開催し、運営及び相談支援体制において連携を図った。

④ネットワークの関係機関には、年１回の会議・研修会のほか、つながりを継続していくために自殺予防週間等に随時訪問し、啓発を実施した。

⑤事業が継続されるよう、当該年度の開催日は、前年度の会議終了後には決定し準備を進め取り組みを関係機関に留めることなく、広く住民に啓発するために、町広報誌への掲載、内容によってはケーブルテレビでの放映等を実施した。

事業の具体的な内容

▼ほっと安心日南町こころの健康づくりネットワーク会議の運営

・ネットワーク会議の事務局は町福祉保健課。

・鳥取県精神保健福祉センター及び鳥取県西部総合事務所米子保健所の支援を受ける。

・構成員：町内医療機関、各地区のまち（むら）づくり協議会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、食育推進協議会、精神保健ボランティア、仏教会、町内事業所、職業安定所、消費生活センター、警察署（町内駐在所）、教育委員会、認定こども園、精神保健福祉センター、保健所、役場関係部署等　※発足当時 44 機関→現在 60 機関

・年１回の開催

▼会議内容

①町からの取り組み報告。

②研修会（ゲートキーパー研修を兼ねる）。

内容：県・町の自死の現状、うつを含むこころの不調への理解、身近でできる自死予防、自死との関係（アルコール、睡眠等）、精神障がいの理解とかかわり方、良い聴き手になるために、発達障がいをはじめとした若者の課題、生活困窮相談や制度の紹介、新型コロナウイルス感染症の影響と自死予防　等

③グループワーク

研修会後に毎回実施。ワールド・カフェ方式により、短時間で内容共有と多くの意見が出しあえるよう工夫。相談窓口となる関係機関の顔が見える関係づくりに役立っている。

▼コロナ禍における開催の工夫

・対面を避けるためグループワークを中止。

・開催時間の短縮を図るため、参加者には、質問や日頃感じていること等を事前にアンケートにて回答していただく。

・参加者を限定し参加人数を縮小。会議資料を、後日対象者全数に配布することで内容の共有に務めた。

【成　果】

▼自死と関連の深いうつ病、アルコール、ひきこもりなど、こころの不調に関する住民の意識が高くなったことで、住民からの相談が増加したり、医療機関につなげたりすることへの理解が深まり、地域の自死対策の底上げとなっている。

▼自死遺族からの相談も入り、対応している。

▼地道に継続して取り組むことで、自死対策を強化していく体制づくりができつつある。
▼自死者数は、2019 年～2021 年は０人で推移している。

【補　足】

▼実績：2021 年度参加者 42 人（2020 年度参加者 44 人）

【課　題】

▼長年の活動により、活動の広がりは見られるが、働き盛りの年代や小中学生へ相談窓口の周知が十分にいきわたっていない。今後、特にこの年代に対してのネットワーク構築が必要である。
▼地道な啓発活動などを行い、関係機関との顔の見える関係を大切に活動しているが、コロナ禍でも対象者が安心して参加できるよう、感染状況によってはオンラインでの開催を検討する必要がある。

【事業種別】　自殺未遂者支援・連携体制構築
【準備期間】　300 日
【人　　数】　2 人（担当職員）
【人口規模】　4,140 人（2021 年４月１日現在住民基本台帳人口）
【財政規模】　￥6,485,493,000（2021 年度一般会計当初予算）
【自治体負担率】0%
【事業対象】　ネットワーク関係機関及び住民
【支援対象】　ネットワーク関係機関及び住民
【委託の有無】　無
【実施主体・問合せ先】
TEL ：0859（82）0374　鳥取県日南町役場福祉保健課
Mail：s2100@town.nichinan.lg.jp

【参考資料・文献】